

はじめに

政府開発援助（ODA）をより効果的・効率的なものとするため、政府は様々な改革を行っております。2008年10月には、国際協力機構（JICA）と国際協力銀行（JBIC）の海外経済協力業務が統合され、有償資金協力、技術協力及び無償資金協力を一元化して実施する新しいJICAが誕生しました。また、2009年7月には外務省国際協力局の機構改革を行い、ODA対象国・地域に一層の焦点を当てた戦略的なODA政策の立案と、多様な援助手法を有機的に連携させて、より効果的な援助を行うための体制づくりを行いました。

評価は、より質の高いODAを実施する上で重要な役割を果たしており、外務省ではODAの評価を充実させるべく日々努力を重ねています。また、国民の皆様に対する説明責任を果たし、より広くODAを理解してもらうためにも評価は重要であると強く認識しております。こうした認識の下、外務省国際協力局評価室は、広報活動との連携を促進するべく、2009年7月の機構改革において、評価・広報室として新しい体制が整えられました。

外務省では、評価の客観性・公平性を確保するため、外部の有識者に依頼して第三者評価を実施しています。具体的には、学識経験者、マスコミ関係者及びNGO代表などで構成される「ODA評価有識者会議」に依頼し、毎年、主に政策レベルの評価を実施し、報告書を作成してきました。こうした評価により得られた提言は、ODAの政策策定や実施の改善に役立てるよう担当部局で検討しています。

一方、第三者評価をどのように実施していくか、また、PDCAサイクルを徹底するために評価をどのように役立てていくのか、また更には特定の協力が意図した成果につながっているのか、といった点を含め、評価の在り方については不断の見直しが必要です。外務省としては、岡田大臣の指示の下、ODA全体の在り方を包括的に見直す中で、評価の在り方についても更に検討していくこととしています。また評価と広報の融合を更に図っていくことが重要と考えております。

27回目の公表となる今回の報告書では、2008年度に外務省、関係府省庁及びJICAがそれぞれ実施したODA評価活動の概要を紹介しています。本報告書により、国民の皆様が日本のODA及びその評価に対する理解を一層深めて頂ければ幸いです。

この報告書の内容は、速やかに外務省ホームページ (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/kaikaku/hyoka.html>) に掲載する予定です。なお、本報告書に掲載しております2008年度実施のODA第三者評価の個別の報告書についても、全文及び概要を外務省ホームページに掲載しております。是非ご覧頂くとともに、ODA評価に関するご質問・ご意見などがございましたら、下記までお聞かせ下さい。

（外務省国際協力局評価・広報室 e-mail:hyoka-iken@mofa.go.jp）

2010年1月

国際協力局長 佐渡島 志郎

表紙写真説明

「保健・医療分野支援」の評価（対象国：セネガル）

写真は、平成 17 年度より実施されている草の根・人間の安全保障無償資金協力「クール・アブドゥ・ンドイ村女性の生活環境整備計画」にて運営された託児所で働く女性です。

同村は、カイヤール市近郊の農村であり、女性は畑仕事、家事、子育て、水くみ等の労働に追われ、また医療機関がないという問題があったため、日本の NGO が日本人コーディネイターを派遣し、住民の生活環境改善のための支援を行なっています。水（井戸およびポンプ）、教育（託児所）、保健（保健ポスト）を支援することにより、女性の生活環境改善が図られており、保健ポストには基礎保健員 1 名と助産婦 1 名が配置されているため出産にも対応しています。



保健ポスト・託児所入口



保健ポスト内部



託児所の様子